



8階

なにわ考古研究所



想像のトンネルを通り
考古学の世界を訪ねよう。

学校では学べない「考古学」



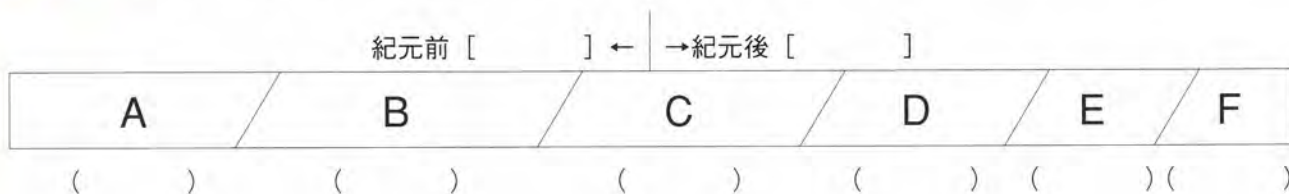
8階 なにわ考古研究所へ行く前に調べておこう!

Q1 遺跡調査で発掘された下のものは、いつの時代に初めて作られたものでしょうか？
右のア～カからあてはまる時代を選んでみよう。

- | | |
|------------|------------|
| ① はにわ () | ② 打製石器 () |
| ③ 国分寺 () | ④ 縄文土器 () |
| ⑤ 弥生土器 () | ⑥ 土偶 () |
| ⑦ 銅鐸 () | ⑧ 和同開珎 () |
| ⑨ 平城京 () | ⑩ 須恵器 () |

- | |
|----------|
| ア) 古墳時代 |
| イ) 飛鳥時代 |
| ウ) 弥生時代 |
| エ) 縄文時代 |
| オ) 旧石器時代 |
| カ) 奈良時代 |

Q2 次の年表A～Fにあてはまる時代を、上のア～カから選んで答えよう。また、紀元前、紀元後の後ろの [] にそれぞれの略称を書きなさい。



Q3 考古学は昔の人が残したもの（遺物）から、その時代の生活や文化を考える学問です。残されたものの多くは地面の中に埋まっているので、発掘作業が重要になります。では、なぜ昔のものは土の中に埋まるのでしょうか？その原因をいくつか考えてみましょう。

- _____
- _____

Q4 館内で紹介されている下の遺跡の中から、1ヶ所を選んでその遺跡について調べてみよう。

- ①法円坂建物群 ②長原古墳群 ③前期難波宮 ④後期難波宮 ⑤細工谷遺跡

選んだ遺跡	
どんなものが発見されたか	
発見されたものから、この時代の人々の生活を想像してみよう	
印象に残ったことや不思議に思ったこと	

解答と解説

Q1の答え

① ア ② オ ③ カ ④ エ ⑤ ウ ⑥ エ ⑦ ウ ⑧ イ ⑨ カ ⑩ ア

Q2の答え

紀元前 B.C. 紀元後 A.D.

A オ B エ C ウ D ア E イ F カ

Q3の答え

問いの意味は、以下のような二つの意味で考えることができます。

①もの（遺物）が埋まる理由、②ものや遺跡が地面より下に埋まる理由（土が堆積した理由）。

それぞれの考え方に対し、以下のような解答例を示しますが、これ以外の理由でも正しいものがあると考えます。

①もの（遺物）が埋まる理由

- ・使っていた道具などが壊れて捨てられたから。
- ・死者に供えるなどの理由で、わざと埋められたから。

②ものや遺跡が現在の地面より下に埋まる理由（土が堆積する理由）。

- ・洪水などで運ばれてきた土砂によって遺跡が埋まる。
- ・別の場所から土を運んできて人工的に盛り土をする。



洪水の写真



盛土の写真

Q4の答え

館内で紹介されている下の遺跡の中から、1ヶ所選んでその遺跡について調べてみよう。

選んだ遺跡	①法円坂建物群	②長原古墳群	③前期難波宮	④後期難波宮	⑤細工谷遺跡
どんなものが発見されたか	古墳時代（5世紀後半）の16棟以上の倉庫群、1棟の規模が90㎡をこえる古墳時代では日本最大級の倉庫群	200基以上の古墳、船形埴輪、馬形埴輪、武人埴輪などのさまざまな埴輪、須恵器、など	飛鳥時代の宮殿跡、14堂以上の朝堂跡、朱雀門跡、石組み遺構、木簡、須恵器、土師器、金製品など	奈良時代、聖武天皇の宮殿跡、8堂の朝堂跡、大極殿の基壇跡、同心円文様の瓦、須恵器、土師器など	和同開珎枝銭、富本銭、木簡、カエルの骨、「百濟尼」「尼寺」などと書かれた土器、さまざまな金属製品、井戸
発見されたものから、この時代の人々の生活を想像してみよう	古墳時代の倉庫は、普通は20～30㎡ていどのものが多く、これだけの規模を持つ倉庫は、当時の王権が管理した倉であることが想像される。柱の配置から、入母屋の高床式倉庫と考えられている。	天皇陵に指定されている古墳などに比べ、規模の小さい前方後円墳、方墳、円墳などで構成される。当時の政権を支えた氏族の墓と考えられ、船の埴輪や武人埴輪などから、葬られた人々の役割を想像することができる。	前期難波宮は、大化改新の後、飛鳥から難波に移されてきた都、「難波長柄豊碕宮」と考えられている。都を造るための金属を加工した跡や、水辺で行われていた祭りの跡などから、当時の技術をかかうことができる。	前期難波宮にはなかった凝灰岩を使った基壇や礎石を用いた瓦葺の建物が出現する。朝堂が8堂と少ないのは、長岡宮と同じで、瓦や柱など多くの建築部材が長岡宮に運ばれた。長岡宮の朝堂院が8堂であるのも、難波宮と関連づけて考えられている。	百濟尼寺と呼ばれる尼寺があった。ここでは、和同開珎が作られていたと考えられる。百濟尼寺は、滅亡した百濟の王族が建立した寺で、朝鮮半島と日本が密接な関係を持っていたことが想像される。
印象に残ったことや不思議に思ったこと					

8階 なにわ考古研究所で考えよう!

vol.001N

なにわ考古研究所 NANIWA **入門** ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。遺跡調査が始まって約1ヶ月がたった。まずはつぎの問題にチャレンジだ。

下の図は発掘現場を記録した図だけど、まだ未完成だ。5つの遺構をかき加えて完成させてほしい。どれだかわかるかな?

vol.001N

なにわ考古研究所 NANIWA **初級** ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。これから初級の問題にチャレンジだ。すみからすみまでよく観察しよう。簡単すぎるかな?

- 一番上の地層に埋まっているものはなにかな?
化石 ビー玉 増輪
- 井戸の中に埋まっているものはなに?
皿 壺 コップ
- 大きなスコップは誰のものかな?
上町所員 須古所長 谷町所員
- 溝からはお金(銭)が見つかっている。どんなお金かな?
十円玉 和同開珎 寛永通宝

vol.002N

なにわ考古研究所 NANIWA **中級** ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。つぎは中級の問題にチャレンジだ。まだ簡単かな?

- 溝はどんな土でうまっているだろう? 上の土から順に番号をつけよう。
 灰色の砂 茶色い粘土
 土器がはいつた土
- 溝のなかから見つかっているものはどれかな?
 動物の骨 植物の種 水でできた道具
- 井戸のわくはなにでできているかな?
 木 石 鉄
- 建物の跡はいくつ見つかっているかな?
 1棟 2棟 4棟

※入門編のワークシートを使って考えてみよう!
建物の跡ってどんな形になるのかな?

vol.002N

なにわ考古研究所 NANIWA **上級** ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。いよいよ上級の問題にチャレンジだ。少し難しいかな?

- 右の図の○の場所(1)で地層を観察しよう。発掘中の地面より上には地層がいくつ重なっているだろう?
 層
- 上の図で ← の場所の柱穴はどんな埋まり方をしているだろう? 穴を横から観察して、右の図を完成させよう。
- 上の図の②から見つかっているものすべてに○をつけよう。
 植物の種 土師器 須恵器 瓦 お金
- 上の図の①~④のなかで一昔古い遺構は何層だろう?
 層 ※穴の横なり方に注目しよう!

vol.001N

入門 ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。遺跡調査が始まって約1ヶ月がたった。まずはつぎの問題にチャレンジだ。

下の図は発掘現場を記録した図だけど、まだ未完成だ。5つの遺構をかき加えて完成させてほしい。どれかわかるかな？

vol.001N

初級 ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。これから初級の問題にチャレンジだ。すみからすみまでよく観察しよう。簡単すぎるかな？

- 一番上の地層に埋まっているものはなにかな？
化石 ビー玉 埴輪
- 井戸の中に埋まっているものはなに？
皿 甕 コップ
甕は煮炊きするうつわのことだよ。
- 大きなスコップは誰のものかな？
上町所員 須古所長 谷町所員
これも注意深い観察のひとつ！
- 溝からはお金(銭)が見つかった。どんなお金かな？
十円玉 和同開珎 寛永通宝

vol.002N

中級 ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。つぎは中級の問題にチャレンジだ。まだ簡単な？

- 溝はどんな土でうまっているだろう？上の土から順に番号をつけよう。
 (3) 灰色の砂 (1) 茶色い粘土 (2) 土器がはいつた土
- 溝のなかから見つかったものはどれかな？
動物の骨 穂物の種 木でできた道具
- 井戸のわくはなにでできているかな？
木 石 鉄
- 建物の跡はいくつ見つかったかな？
1棟 2棟 4棟

※入門編のワークシートを使って考えてみよう！
 建物の跡ってどんな形になるのかな？

vol.002N

上級 ワークシート

考古学者になろう

よーこそ発掘現場へ。いよいよ上級の問題にチャレンジだ。少し難しいかな？

- 右の図の○の場所で地層を観察しよう。発掘中の地面より上には地層がいくつ重なっているだろう？
 (4) 層
- 上の図で ← の場所の柱穴はどんな埋まり方をしているだろう？穴を横から観察して、右の図を完成させよう。
穴を横から見た図
- 上の図の②から見つかったものすべてに○をつけよう。
穂物の種 土師器 須恵器 瓦 お金
- 上の図の①～④のなかで一番古い遺構は何番だろう？
 (4)

※穴の横なり方に注目しよう！

なにわ考古研究所の問題作成を担当して

私たち社会科の教師も、授業で教えている内容についてどれほど本当のことを知っているのか疑問に感じるときがあります。歴史上の事件の解釈や評価について、本当のところを見て来た人はいません。とくに人間が記録を残すようになる前のようすについては、想像による部分が大部分を占めます。遺跡から当時の建物や生活のようすを正確に知ることは非常に難しいことだと思います。今回、この冊子作成にあたり、8階の考古学のコーナーを担当させていただきましたが、私自身も考古学についてはまったくの素人でした。このコーナーは考古学についての入門・手法を紹介し、実際に体験できるしくみになっています。そうした体験を通して、考古学について興味を持ち、中学校では学ぶことが少ない角度から、歴史に興味をもつ生徒が一人でも出てくれれば幸いに思います。気楽な気持ちでこの考古学コーナーにお立ち寄りください。

(大阪市立八阪中学校 高橋 司)

なにわ考古研究所の制作裏話 — 博物館より —

「博物館に発掘現場?!」。意外な展示手法にたまたま工事中と勘違いされる「なにわ考古研究所」。発掘現場の再現は、考古学を楽しみながら、博物館の地下に眠る難波宮や市内の遺跡について、よりよく理解してもらおうと生み出されたアイデアでした。訪れた方が考古学者の気分になれるよう、本物そっくりを目指しました。実際に使っていたカメラや発掘道具だけでなく、土は市内のいろんな遺跡から採取しました。また、この遺跡を「解読」する手助けとなるワークシートは、今では4種類ありますが、その原形は開館前の親子体験で試されたものでした。

テーブルに目を転じると、弥生土器の復元パズルが一番人気ようです。これも本物の感触にこだわりました。また、はじめは人が土器のまわりを回っていましたが、楽しみやすくなるように、回転式に改良しました。

このほかにも試行錯誤は数知れず。その精神は今も受け継がれています。